

図1-11-10 性に関する事柄を知るべき時期

— “多様な性のあり方(同性愛、性的指向、性同一性障害等)” (性別、性・年齢別)

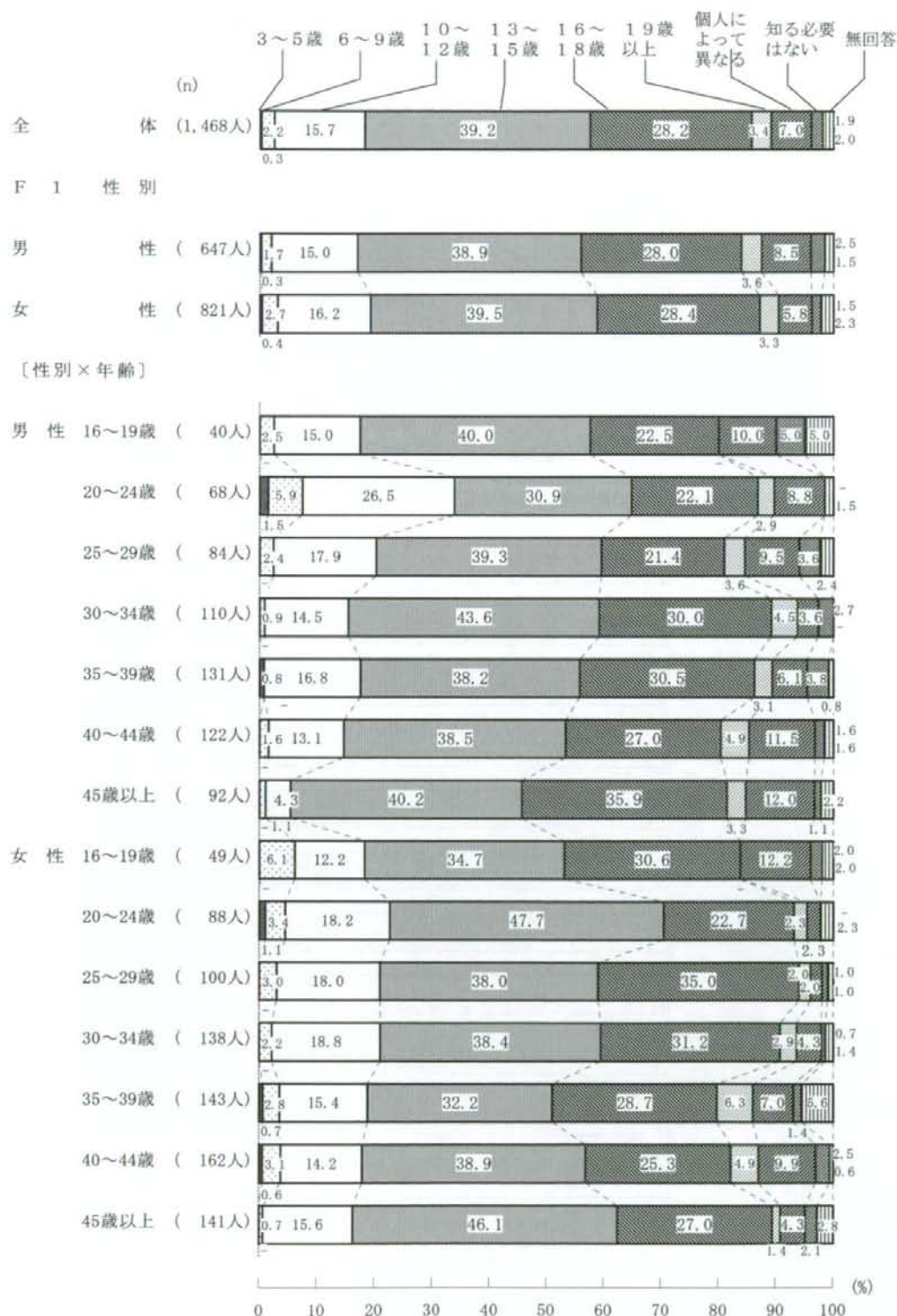


図1-11-11 性に関する事柄を知るべき時期 - “性的被害(レイプや性暴力など)の対処法”

(性別、性・年齢別)

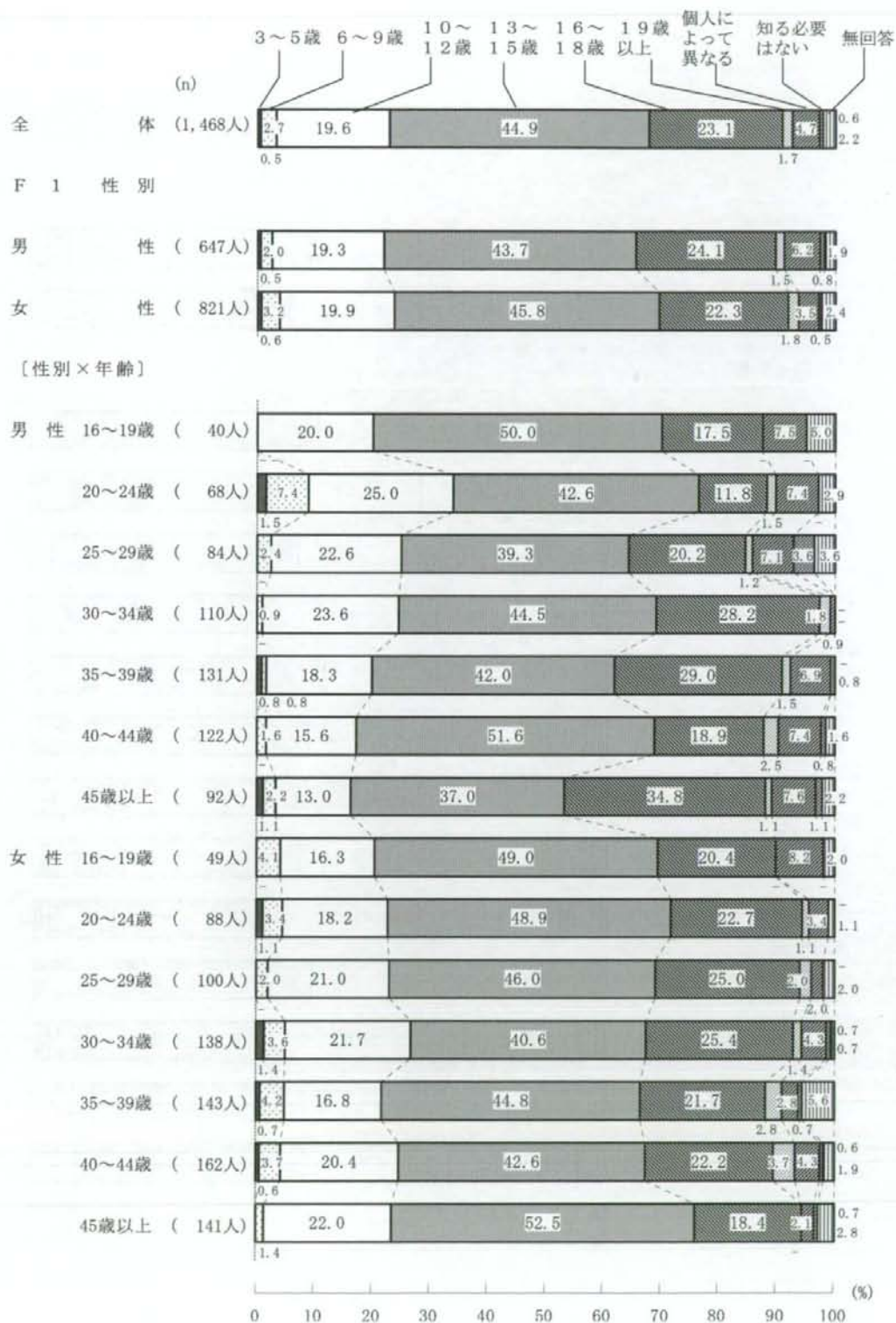


図1-11-12 性に関する事柄を知るべき時期—“男女間の平等や助け合い”

(性別、性・年齢別)

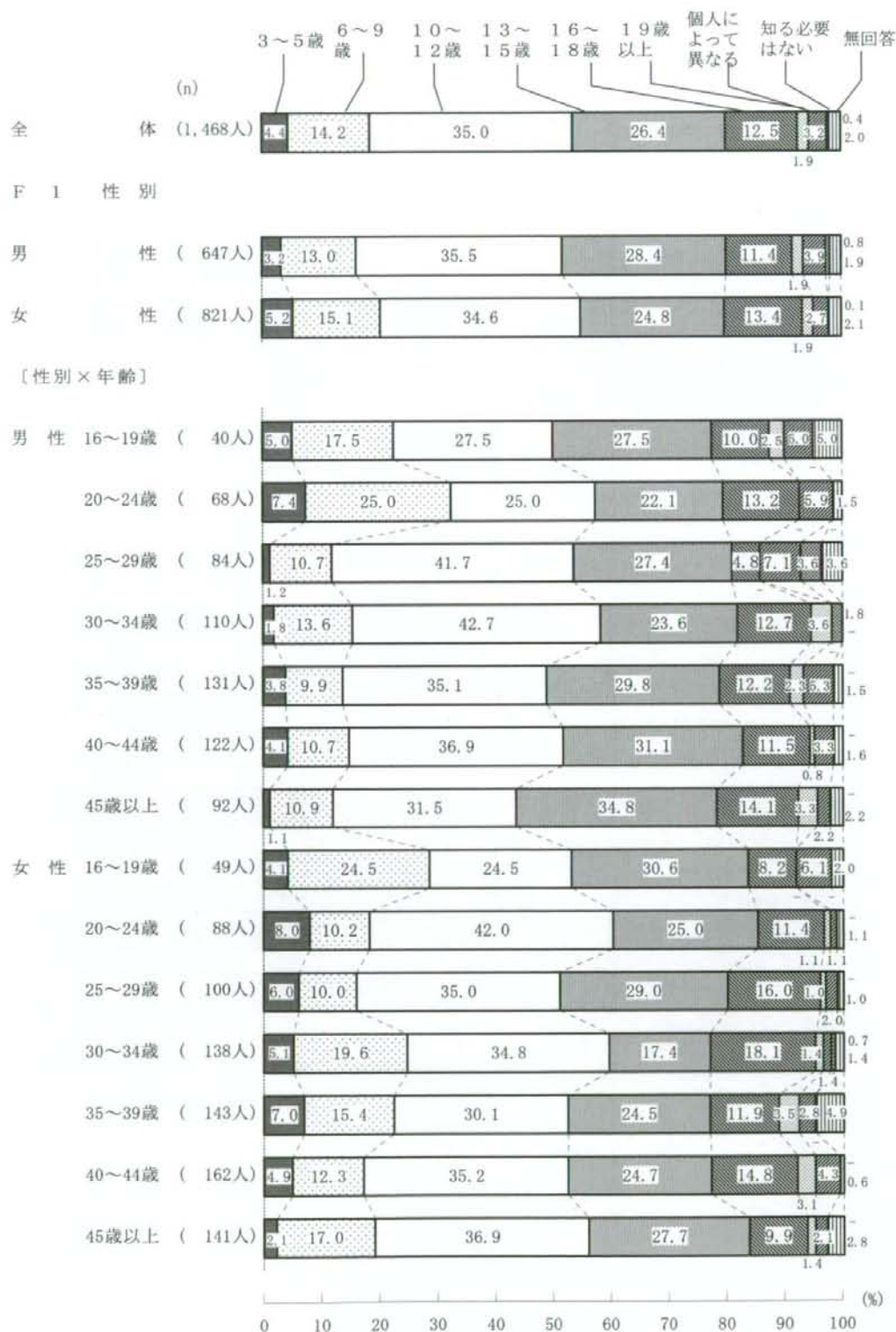


図1-11-13 性に関する事柄を知るべき時期—“結婚” (性別、性・年齢別)

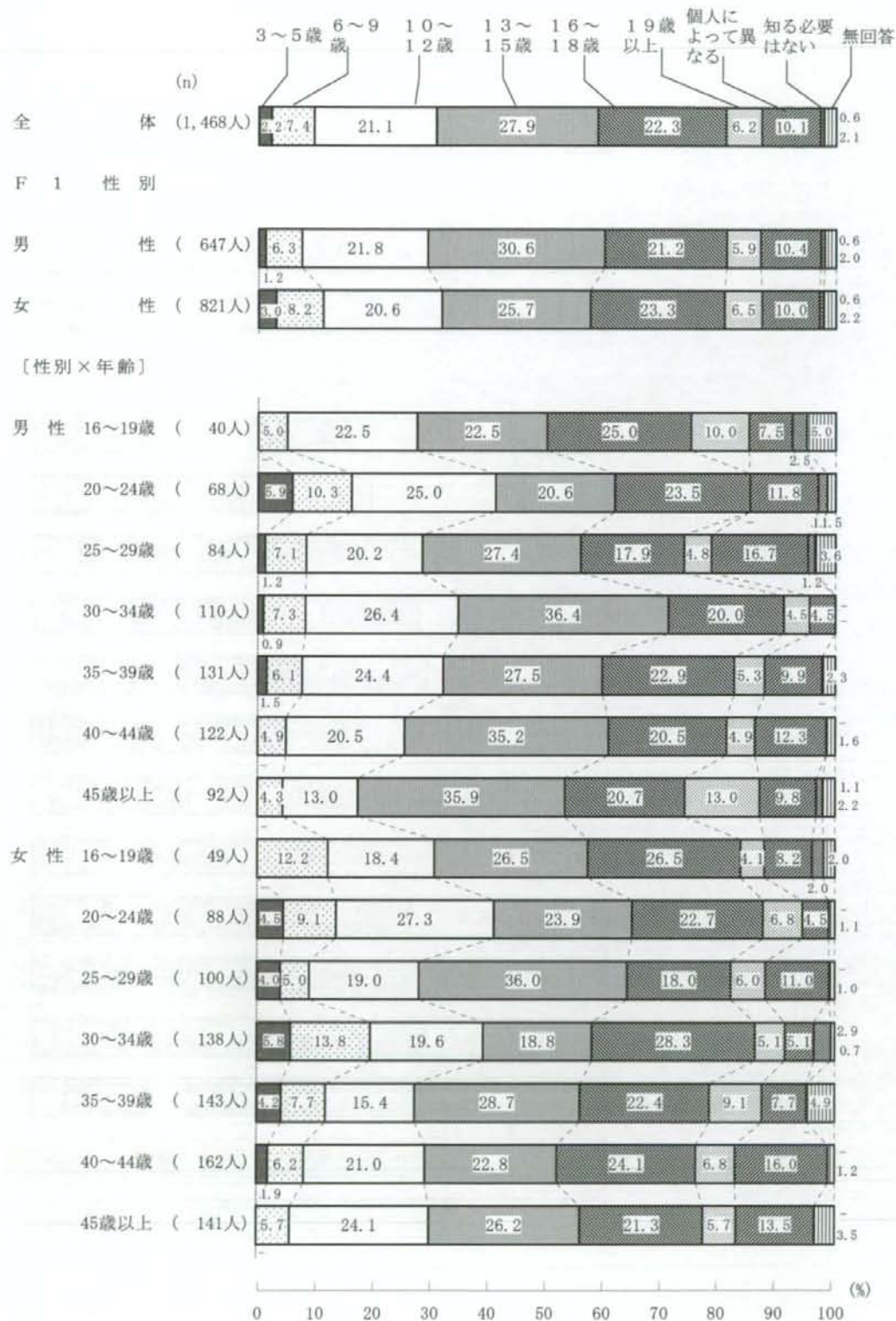


図1-11-14 性に関する事柄を知るべき時期-“離婚”(性別、性・年齢別)

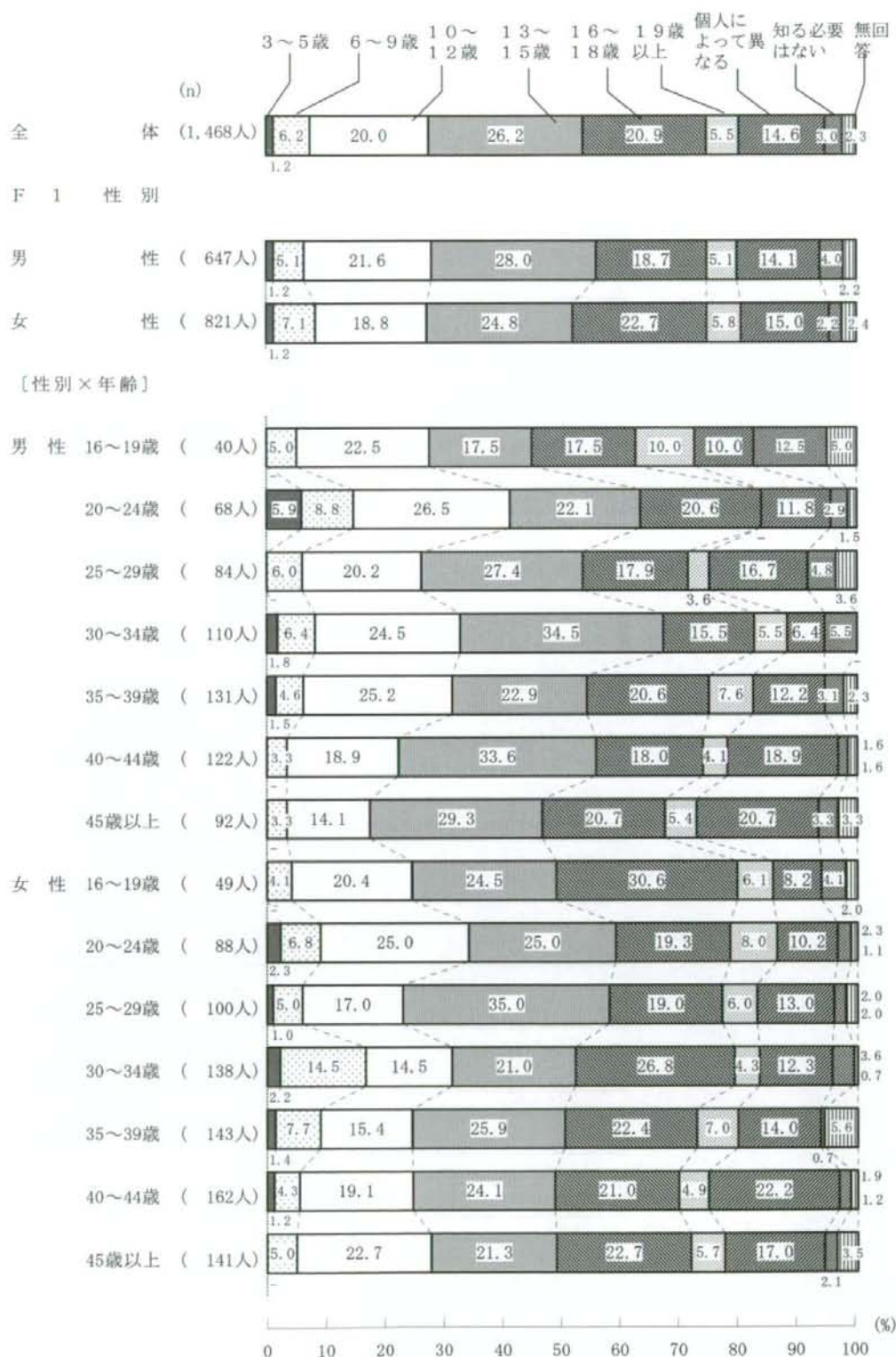


図1-11-15 性に関する事柄を知るべき時期

— “人と人とのコミュニケーション（関わり方）”（性別、性・年齢別）

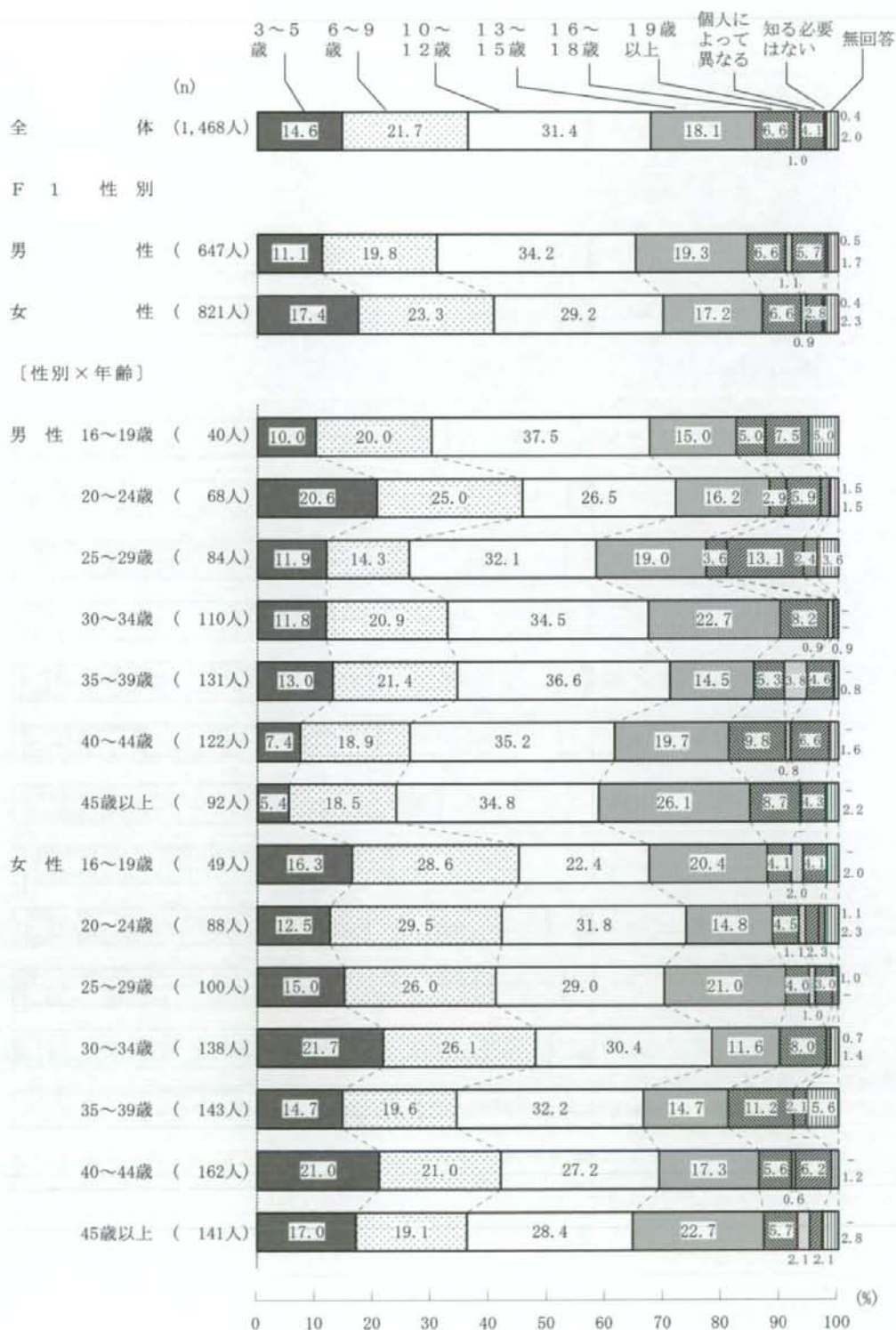
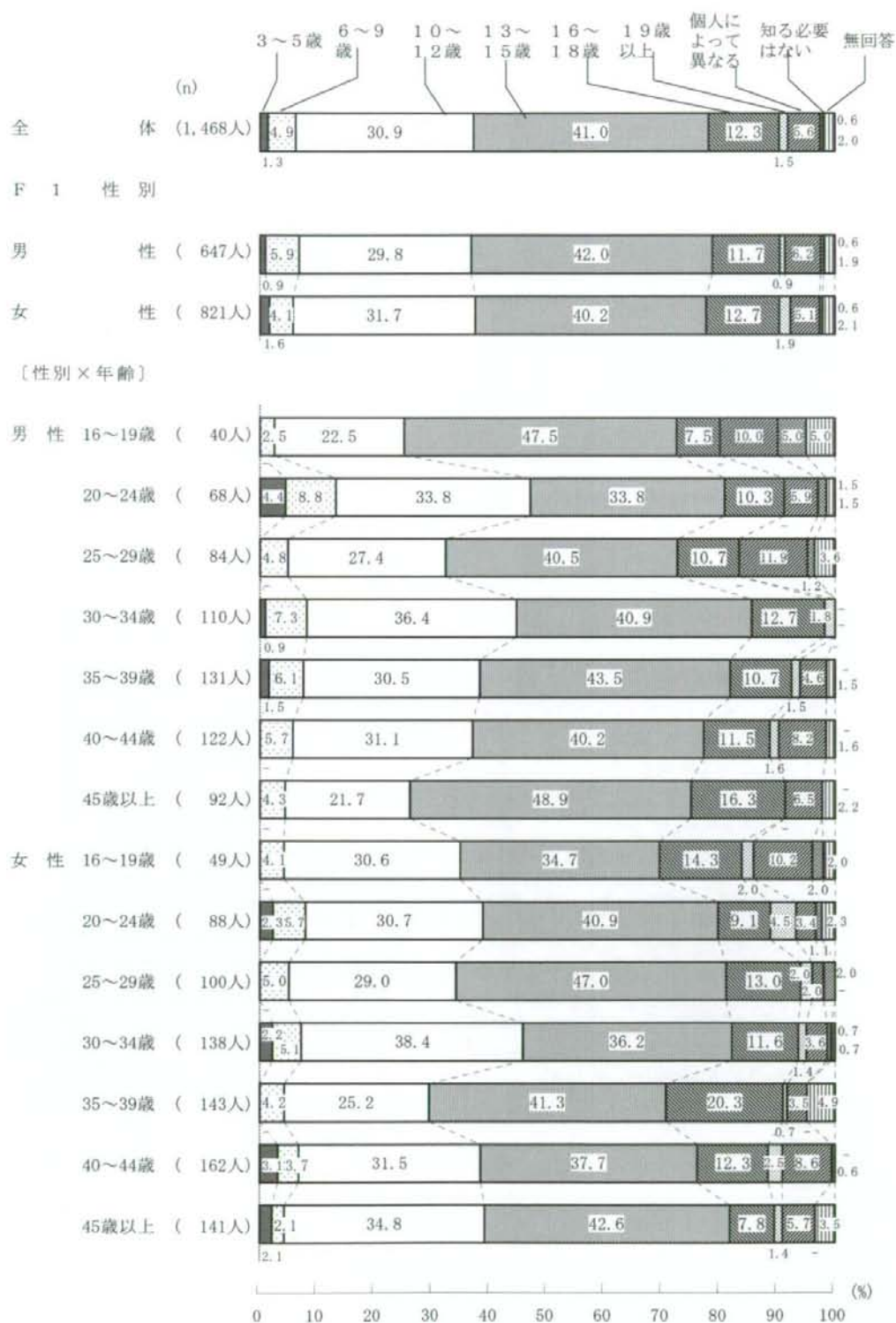


図1-11-16 性に関する事柄を知るべき時期 - “性に関する倫理や道徳”

(性別、性・年齢別)



最後に、“性に関する倫理や道徳”を知るべき時期については、性別による大きな差はみられない(図1-11-16)。

性・年齢別にみると(図1-11-16)、ほとんどの性・年齢層では中学生にあたる「13～15歳」が最も多くなっているが、女性の30～34歳では小学生高学年にあたる「10～12歳」(38.4%)で知るべきだとする者が最も多く約4割を占めている。一方、高校生にあたる「16～18歳」に知るべきとする者は女性の35～39歳(20.3%)で、他の性・年齢層より多くなっている。



## 第2章 男女の関係性についての意識

### 1 これまでに付き合っていた相手の有無

問9 いままでに、あなたは付き合っていた（いる）異性の相手がありますか。現在進行中の関係も含めてください。結婚相手（夫、妻）も含みます。（○は1つ）

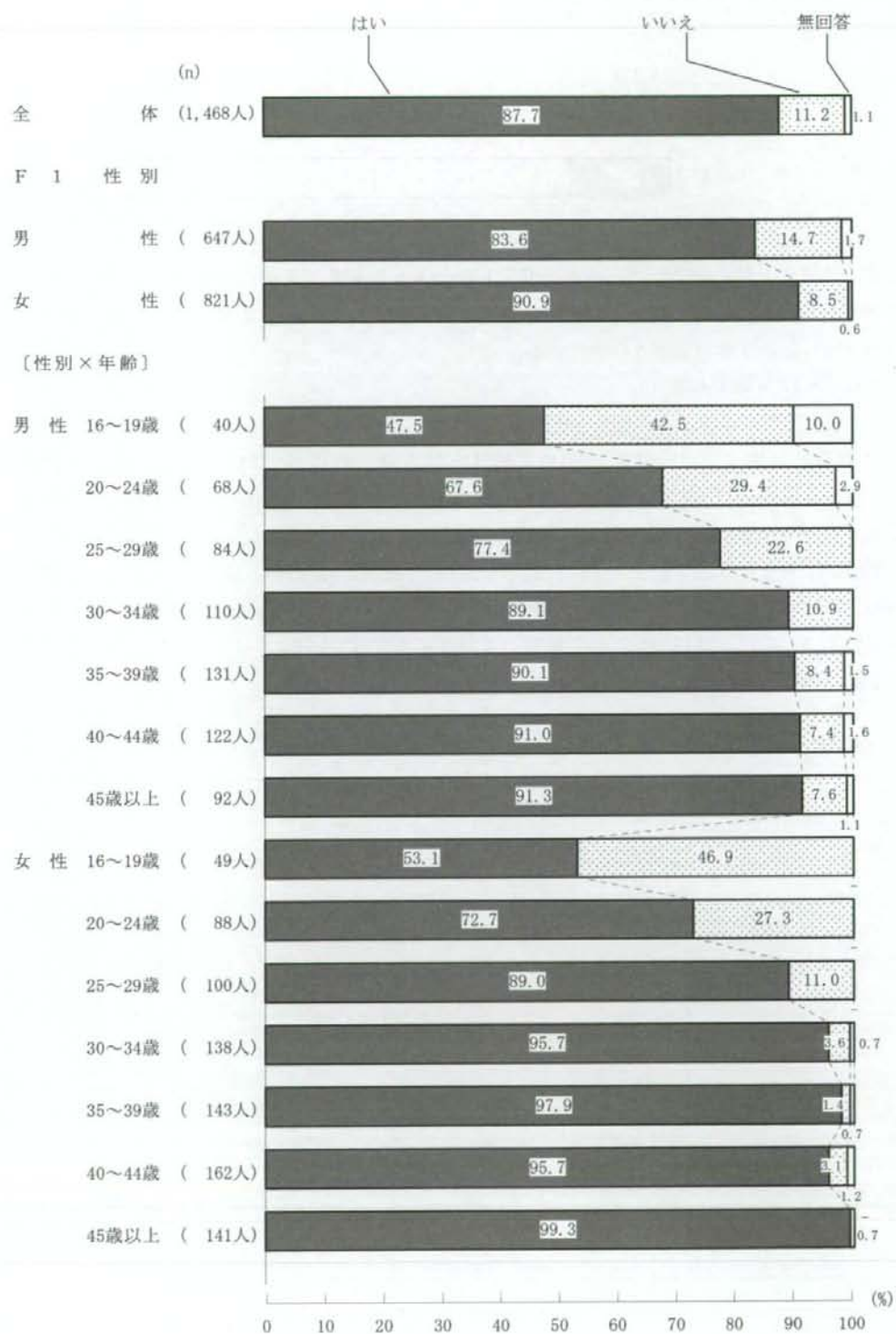


現在進行中の関係や結婚相手も含めて、いままでに付き合っていた（いる）相手がいるかを聞いたところ、「はい」（87.7%）と答えた、異性と付き合った経験のある者は約9割を占めた。一方、経験のない者（「いいえ」11.2%）は1割である。

性別にみると（図2-1-1）、「はい」と答えた、異性と付き合った経験のある者は、男性（83.6%）より女性（90.9%）で多く、女性の9割を占めている。

性・年齢別にみると（図2-1-1）、これまでに付き合った経験のある者（「はい」）は、女性の30歳以上の年齢層では9割半ばを超えている。一方、「いいえ」と答えた、付き合った経験のない者は男性の29歳以下と女性の24歳以下の年齢層で多くなっている。

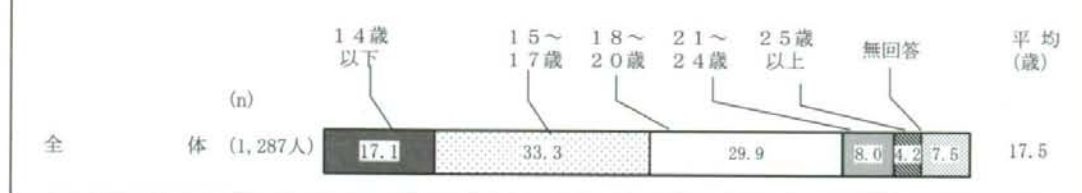
図2-1-1 これまでに付き合っていた相手の有無 (性別、性・年齢別)



## 2 はじめて異性と付き合った年齢やその関係が終わった年齢

【問10と問11は、問9で「1」と答えた人にお聞きします。】

問10 初めてそのような相手を持ったのは、あなたが何歳のときですか。



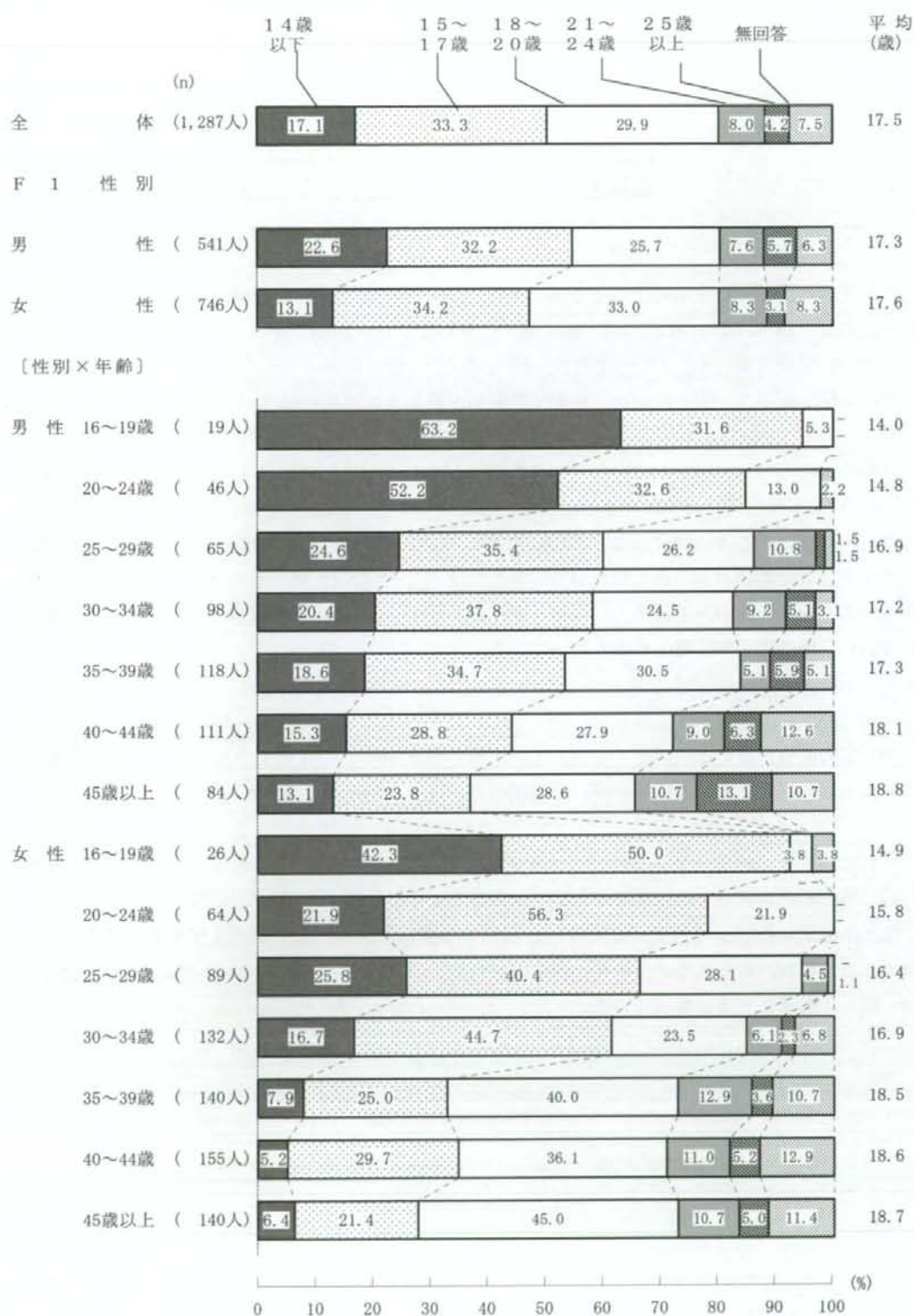
これまでに異性と付き合い合ったことがある者 (1,287 人) に初めてそのような相手を持った時の年齢を聞いたところ、「15~17 歳」 (33.3%) という者が 3 人に 1 人を占め最も多く、次いで「18~20 歳」 (29.9%) という者が 3 割となっている。

平均すると、17.5 歳である。

性別にみると (図 2-2-1)、初めて異性と付き合い合ったのが「14 歳以下」という者は女性 (13.1%) より男性 (22.6%) で多く、「18~20 歳」という者は男性 (25.7%) より女性 (33.0%) で多くなっている。平均すると、男性 17.3 歳、女性 17.6 歳で男女差は少ない。

性・年齢別にみると (図 2-2-1)、初めて異性と付き合い合ったのが「15~17 歳」という者は女性の 34 歳以下の年齢層で 4 割以上を占め、多くなっている。「18~20 歳」という者は女性の 35~39 歳 (40.0%) と 45 歳以上 (45.0%) の年齢層で 4 割以上となっている。「14 歳以下」という者は男女とも若年齢の層ほど多い傾向がみられる。

図2-2-1 初めて異性と付き合った年齢（性別、性・年齢別）



問 11 その初めての関係がおわったのはあなたが何歳のときですか。



これまでに異性と付き合いがあったことがある者 (1,287 人) に初めての関係が終わった時の年齢を聞いたところ、「15~17歳」が27.7%で最も多く、次いで「18~20歳」が23.5%となっている。なお、「現在、関係が続行中」という者は15.1%である。

現在関係が継続中の人を除いた、初めての関係が終わった平均年齢は18.1歳である。

性別にみると (図2-2-2)、初めての関係が終わった時の年齢が「14歳以下」という者は女性 (7.4%) より男性 (14.2%) で多くなっている。平均すると男性17.8歳、女性18.4歳である。

性・年齢別にみると (図2-2-2)、初めての関係が終わった時の年齢が「14歳以下」という者は男女とも若年齢ほど多くなる傾向がみられる。また、「15~17歳」という者も女性では若年齢ほど回答が多くなる傾向がみられる。「現在、関係が続行中」は女性の45歳以上 (27.9%) で3割弱を占めており、他の性・年齢層より多くなっている。

初めての関係が続いた期間としては「1年未満」が31.6%、「1年」が22.8%で、現在関係が継続中の人を除いた、初めての関係が続いた期間の平均は1.4年となっている (図2-2-3)。

性別にみると (図2-2-3)、「1年未満」は女性 (29.2%) より男性 (34.9%) で多くなっている。現在関係が継続中の人を除いた平均は男性1.2年、女性1.5年となっている。

性・年齢別にみると (図2-2-3)、初めての関係が続いた期間が「1年未満」は男女とも若年齢ほど多い傾向がみられる。「現在、関係が続行中」は女性の45歳以上 (27.9%) で3割近くを占め、他の性・年齢層より多くなっている。

図2-2-2 初めての関係が終わった年齢 (性別、性・年齢別)

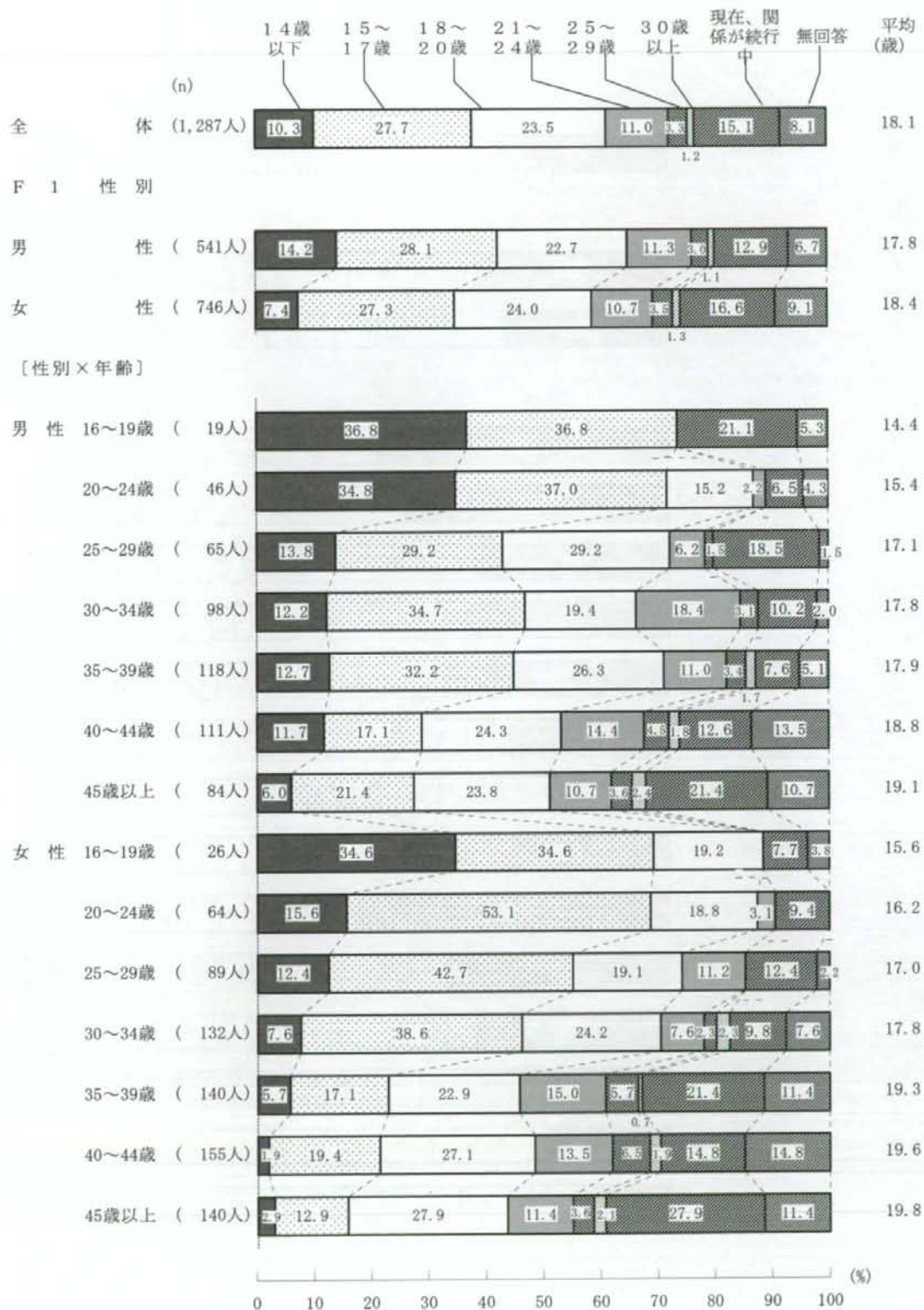
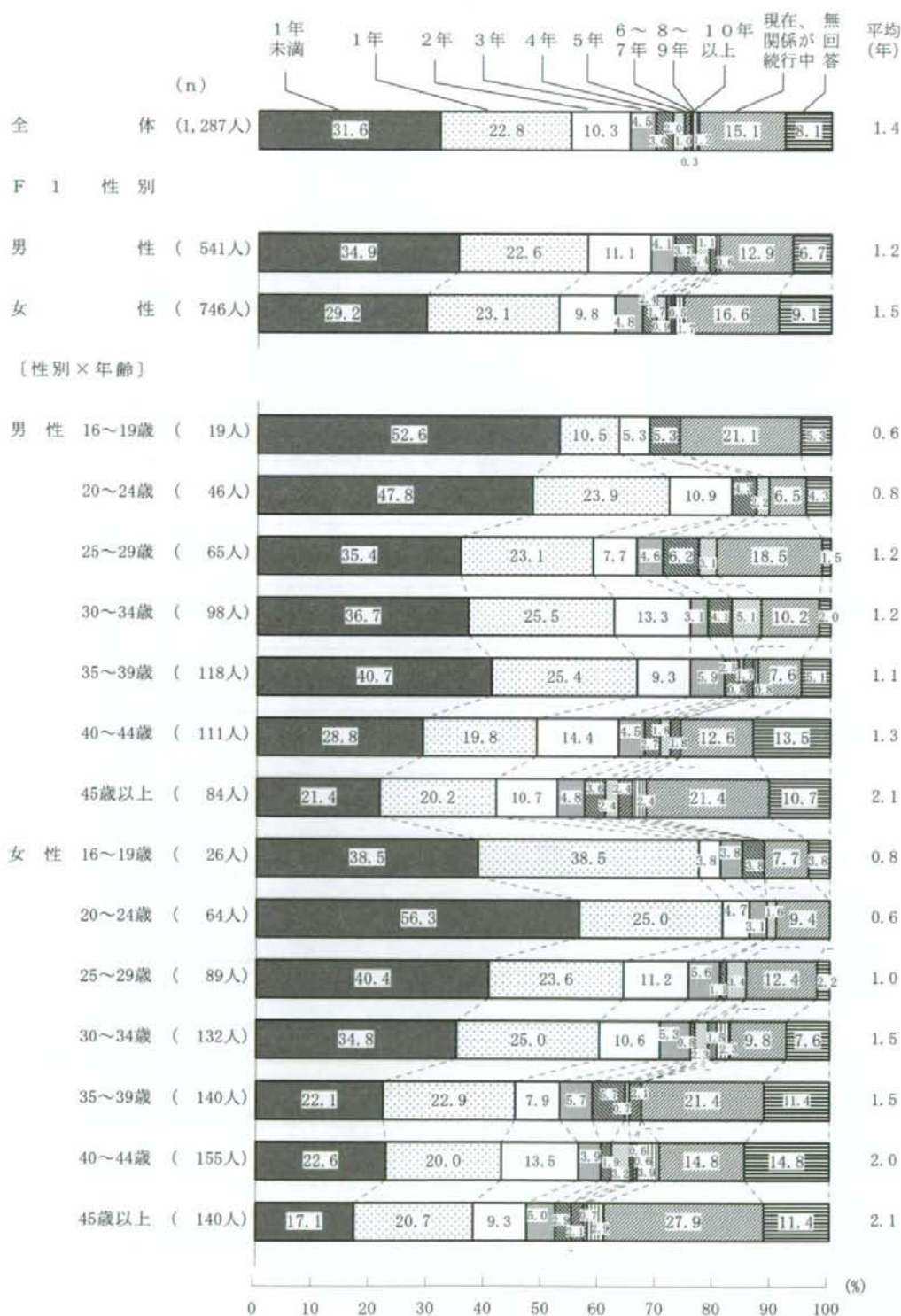
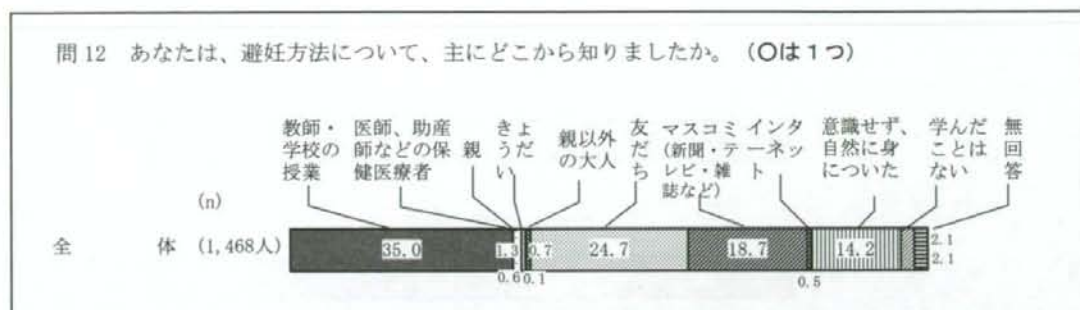


図2-2-3 初めての関係が続いた期間（性別、性・年齢別）



### 第3章 性の意識や知識について

#### 1 避妊方法の主な情報源



避妊方法についての主な情報源としては、「教師・学校の授業」(35.0%)であるという者が最も多く、次いで「友だち」(24.7%)という者が4人に1人、「マスコミ(新聞、テレビ、雑誌など)」(18.7%)という者が約2割で続いている。

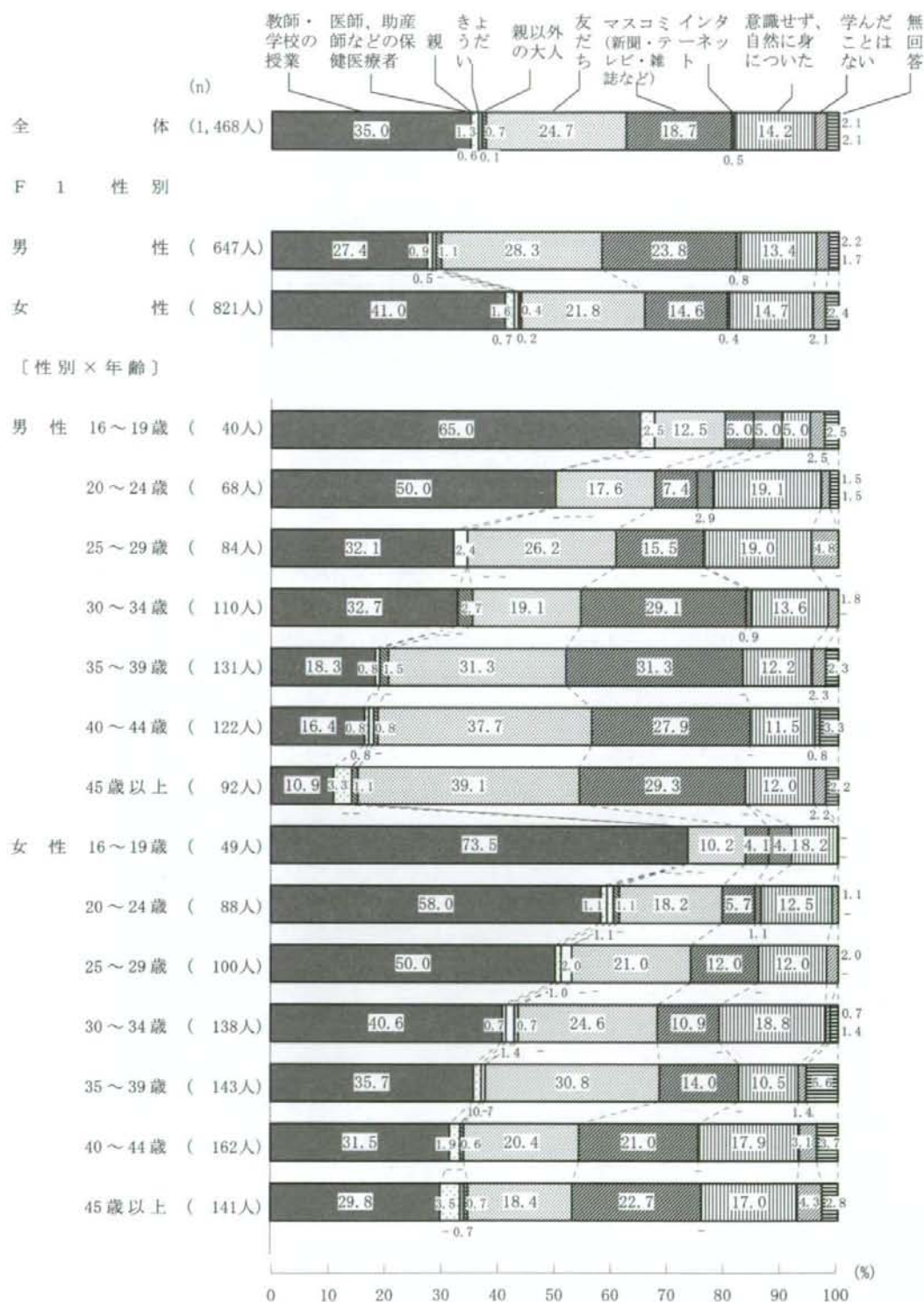
「意識せず、自然に身についた」という者は14.2%、避妊方法について「学んだことはない」という者は2.1%である。

性別にみると(図3-1-1)、「教師・学校の授業」(男性27.4%、女性41.0%)という者は男性より女性に、「友だち」(同28.3%、21.8%)と「マスコミ(新聞、テレビ、雑誌など)」(同23.8%、14.6%)という者は女性より男性に、それぞれ多くなっている。

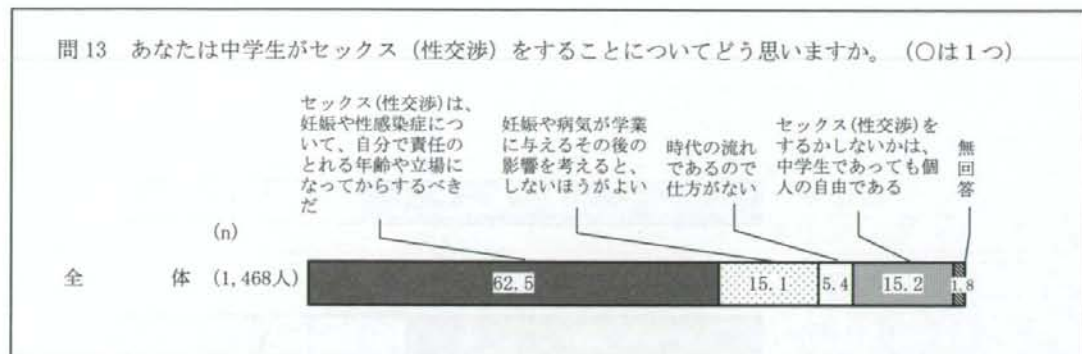
性・年齢別にみると(図3-1-1)、「教師・学校の授業」から避妊法を知ったという者は、男女とも若年齢ほど多くなる傾向がみられる。また、「教師・学校の授業」は男性の34歳以下と女性のすべての年齢層で最も多くなっている。一方、「友だち」から知ったという者は、男性では年齢が高いほど多くなる傾向がみられ、男性の40~44歳(37.7%)と45歳以上(39.1%)で4割近くを占めている。また、「マスコミ(新聞、テレビ、雑誌など)」も男性の30歳以上の年齢層では3割前後を占め、他の性・年齢層より多くなっている。



図3-1-1 避妊方法の主な情報源 (性別、性・年齢別)



## 2 中学生のセックス（性交渉）について



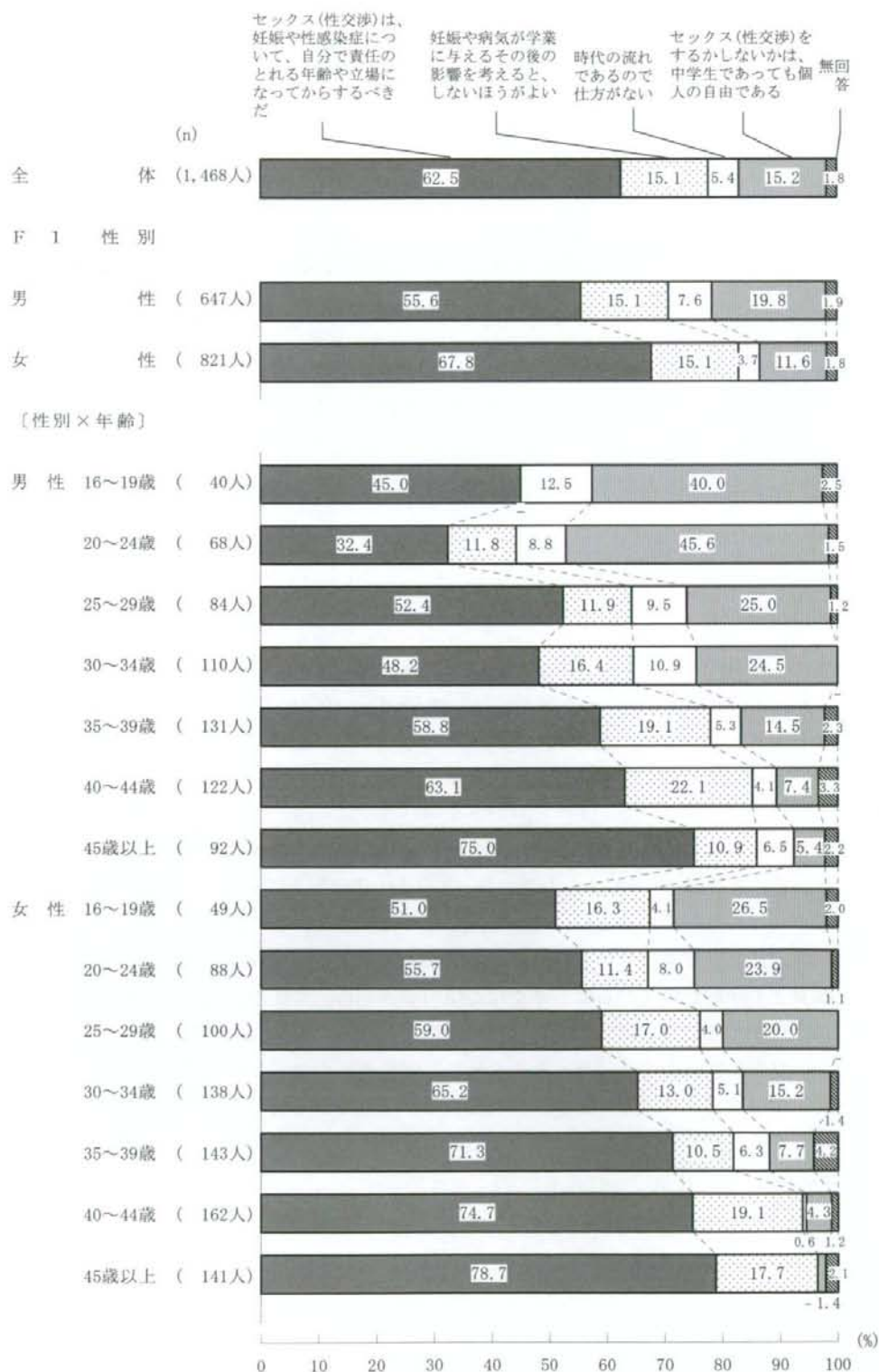
中学生がセックス（性交渉）をすることについての意識を聞いたところ、「セックス（性交渉）は、妊娠や性感染症について、自分で責任のとれる年齢や立場になってからすべきだ」（62.5%）という者が6割強を占め、「妊娠や病気が学業に与えるその後の影響を考えると、しないほうがよい」（15.1%）という者を合わせると、8割近くが中学生のセックス（性交渉）は望ましくないと考えている。

一方、「セックス（性交渉）をするかしないかは、中学生であっても個人の自由である」（15.2%）という者は1割半ばで、「時代の流れであるので仕方がない」という者は5.4%である。

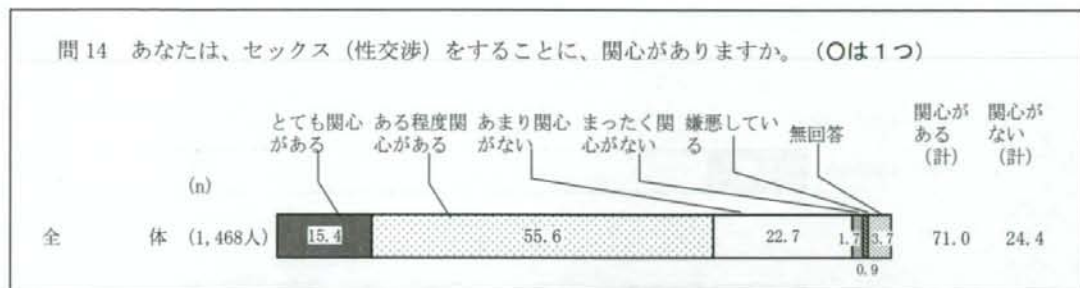
性別にみると（図3-2-1）、「セックス（性交渉）は、妊娠や性感染症について、自分で責任のとれる年齢や立場になってからすべきだ」（男性55.6%、女性67.8%）という者は女性では3人に2人を占めており、男性を12ポイント上回っている。一方、「中学生であっても個人の自由である」（同19.8%、11.6%）という者は男性では2割を占め多い。

性・年齢別にみると（図3-2-1）、「セックス（性交渉）は、妊娠や性感染症について、自分で責任のとれる年齢や立場になってからすべきだ」という者は、男女とも年齢が高いほど多くなる傾向がみられ、特に男性の45歳以上と女性の35歳以上の年齢層では7割を超えている。また、「セックス（性交渉）は、妊娠や性感染症について、自分で責任のとれる年齢や立場になってからすべきだ」と「妊娠や病気が学業に与えるその後の影響を考えると、しないほうがよい」を合わせた割合でも、男女とも年齢が高くなるほど多くなる傾向がみられ、女性の45歳以上では、「セックス（性交渉）は、妊娠や性感染症について、自分で責任のとれる年齢や立場になってからすべきだ」（78.7%）と「妊娠や病気が学業に与えるその後の影響を考えると、しないほうがよい」（17.7%）をあわせると、ほぼ全員が中学生のセックス（性交渉）は望ましくないと考えている。一方、「セックス（性交渉）をするかしないかは、中学生であっても個人の自由である」という者は男女とも若年齢ほど多い傾向がみられる。

図3-2-1 中学生のセックス（性交渉）について（性別、性・年齢別）



### 3 セックス（性交渉）することへの関心の有無



セックス（性交渉）をすることへの関心の有無を聞いたところ、「とても関心がある」という者は15.4%で、「ある程度関心がある」者（55.6%）を合わせると、7割以上がセックスをすることに『関心がある』（71.0%）と答えている。一方、「まったく関心がない」という者は1.7%で、「あまり関心がない」（22.7%）を合わせた『関心がない』（24.4%）という者はほぼ4人に1人となっている。なお、「嫌悪している」（0.9%）という者はほとんどいない。

性別にみると（図3-3-1）、セックスをすることに「とても関心がある」（男性27.7%、女性5.7%）という者は男性が女性を22ポイント上回っている。「ある程度関心がある」（同59.2%、52.7%）という者を合わせたセックスに『関心がある』（男性86.9%、女性58.4%）者でみると、男性では8割半ばを占めており女性を28ポイント上回っている。

性・年齢別にみると（図3-3-1）、セックスをすることに「とても関心がある」という者は男性の25～39歳の年齢層で3割以上を占めている。また、「ある程度関心がある」という者を合わせた『関心がある』という者は男性のすべての年齢層で8割を超え、特に男性の25～34歳の年齢層では9割を超えている。一方、「あまり関心がない」という者は女性の25歳以上の年齢層では年齢が高くなるほど多くなっている。『関心がない』でも、女性ではほぼ同様の傾向がみられ、特に女性の40～44歳の『関心がない』は45.1%、45歳以上の『関心がない』は44.7%と多くなっている。